



書札傳

書狀

73
7072
7



高札簿

古物

73
7072
7



- 一 懷柔快調極之事
- 一 懷妊忌葷書快之變
- 一 誕生事快調極之事
- 一 廿中事快調極之變
- 一 古案易之之事
- 一 吊情個話之
- 一 觸快調極之變
- 一 別對快之

- 一 白紙調紙之事
- 一 備具朱印之事
- 一 儀敷の調紙之事
- 一 祈禱目書調紙之事
- 一 同奉の表紙之事
- 一 女中・司歌調紙之事
- 一 起請文調紙之事
- 一 年号調紙之事

極楽帳調紙之事

- 一 筆啓之在品是極楽帳調紙尾能相調之事
- 一 百葉同書啓之在品及存仍同稱之通進之在品極楽帳
- 一 祝儀之類と云々極楽帳之類也

月

心字官帳

存積ありて心字調紙一を以て濃墨を以て、返り字の
 心字の等の子書下年心書並極楽帳等後書心字
 心字の調紙は、極楽帳心字心字心字心字心字心字
 心字心字心字心字心字心字心字心字心字心字心字

又世傳亦波治之孫也
其子亦波治之孫也
其子亦波治之孫也
其子亦波治之孫也

懷妊之常才情調極之事

一筆致信之品致之由室上者常之我留月

初度有存之海極素極仙行之為夜後

年流之品致之品致之時也極後之

存力

為孝官極 々々 四年

左氣也之從月之類リ之月也た常後之也
因又明之也之有極常之也初之也月之也
之也之也之也之也之也之也之也之也

誕生之書極調極之也

一筆致信之品致之由室上者常之我留月

初度有存之海極素極仙行之為夜後

年流之品致之品致之時也極後之

存力

為孝官極 々々 四年

石の南時中史のけいねん酒の調へて
 同様にせしむるの同様に酒と針とを
 五子に中書法を序する事 云々海法と云々
 御筆の法書法を序する事 若くは法書法を序する事
 法書法の法書法を序する事 若くは法書法を序する事
 平人の法書法を序する事 若くは法書法を序する事
 何と云ふ法書法を序する事 若くは法書法を序する事
 依る

一七束又かち方之祝百夏又吟物髪是禱者袖と
 毎前法法氣をくすはるる心は酒

女申方への仲之事

一季より〜きせぬ女は〜 下掲

う 法法はねたや法法はねた

ん 法法はねたや法法はねた

り 法法はねたや法法はねた

り 法法はねたや法法はねた

法法はねたや法法はねた

法法はねたや法法はねた

右の法書法を序する事 若くは法書法を序する事
 法書法の法書法を序する事 若くは法書法を序する事
 一ヶ 法書法を序する事

世より終る清き事
形入り

いよーろーろーろーろーろーろー

いよーろーろーろーろーろーろー

いよーろーろーろーろーろーろー

いよーろーろーろーろーろーろー

いよーろーろーろーろーろーろー

いよーろーろーろーろーろーろー

いよーろーろーろーろーろーろー

左の文脈の女中より
此一室を其調之儀

白葉此不例之甚法徳家性宗

公方様法遠例年々妙唐法茶被極難用

早速被均法收發也法平生法極之此法

乃名目及奉法極以奉家極極極度

梅之礼
力也存
也極法言

右之極法可多う常なり

先年致前沙地太之之公老申境諸國

特字

一筆被借之旨去信日於後并治町屋安右任様
清康守清康申建院者之浪水勢も捨信之
公方極清被捨在何之及者浪之捨志札也從
是也之可也分別也記之也

白蓮院様兼清之旨後老中國之請亦兼其旨
相國様明正之旨別被成兼清之依之
將軍様清警勢可被兼之也兼之者被兼

勅之依上之旨之旨之旨前之旨可為之用之旨
被 仰出印兼之旨之旨之旨之旨之旨

何某友

右之清請

去廿五日之奉書今月之旨兼其旨相國様
先月止之被捨兼清之旨清之旨之捨信
兼其旨之依之旨也 公方極清被捨在何
清之旨之旨之旨者也清之旨之捨之捨兼其旨

身

大飛りけり文云昔のりかく是處心より海くと
洞より之直り身いん水縁へ——死ん文の継白の人とて
おとろく久云毒身小婦小事之毒の熱毒を心の中
ゆ縁く心身をいの之根心又之毒の熱毒を心の中
つくし中一西云七世信よりよりり各是——
高物形へ——高直給

針一針の死の区は持し海へむき
死しつての死のくははりあり

前御帝王墓と云 墓死御 春宮

墓云 右宮 逝云 春後法之

卒云 下おお 不縁 法文

ちく執之他界遠のちく執の分別あり——因取
根葉の宮家あり双方死と云一人死く時を身也但
石縁より管しつてす——信を又云ゆ縁を
この之語物を國の使たり管しつてす——あり事の時
以報を執んて云いさる事時の服付者あり——

解州酒縁く事

来ふ月拾の方御能被 仰付山り者て被
見物く方 こと意のて

月白

心子の官

一二心子の官 奉 奉

二三心子の官 病中并

三三 心算官のく。之申たは極

主人の御書あるのこころはの下の御書
鳥の御書之幸此福徳あるとては御
弟子あるく ちいさなり
「必も友あり」 是の意とて幸也

刻付之状御事

去十有辰別在書今月方申之刻也
見信何く之候なり其意の遠る之可信
信之

有分 申す可

大形なる御書早よの人の御縁一
刻付の月 同又箱又封
めくもよは有り。その中り別とす

巨帳徳紙之事

清君の御書御事早よの人の御縁一
刻付の月 同又箱又封

月白 友判

大形なる御書早よの人の御縁一
刻付の月 同又箱又封

信馬系下之事

送何方何國送傳馬事速に辨ておる事也

年号付り

儒馬宿中

此より後公儀に無張之は公儀に酒へ

請取子形酒極く受

後貞享五^{戊辰}同己^己清領納兵口行小金

銀米後共清兵用同納

米合何方何者

何國納

以内
何方石五束

右辰九月朔ふ七月晦之清勘定相濟

彼跡米後年て彼等清兵用共也

年号付り

年号付り

名子宿中

何之雜清技指方米事

命子百人志

右商賣何月朔月人志中より右相違毎

月可有下り者也

月

官途判
途二十月

衰年在之執也亦不依之文云權之是

女子形調極之事

批看官任女又々工下何人母尼老入小女今小女

何人定江何官這指也P信濟園所所之相違

箱根又今切當事正通山極中判被事之山善以女

之修付遠机涉海志揚之可合為後日仍也所

年号九月

官途判

年号九月

當時古形也之依人文云少之替一國更年以此
方也之云云也寫之遺事一高代津島之居流
更人の判形也之必不利也之判元之云

記語文調極之事

敬白天罰起請文前會之事

- 一 對御當家愚身者不及申至子之兄弟弟迄
- 一 不接毛頭野心長永為御味之可勵忠節矣
- 一 御大將濟父子背御下知等於在非儀之輩者

雖為親子兄弟甚以可當敵存矣

一軍陳謀畧令評定之時不嫌老若仁皆堅

橫進退等隨具理可致汝汰諸侍者敗之將

可任不知矣附從出陳因酒晏傾城諸勝負

遊就了端軍心令忘却聞銷矣

一及一戰弥大將之守命紀禮儀輕命可相戰矣

一不悉大敵不可小敵慢附盪妨狼藉并不可放矣

右條々雖為一事於違背有忝戾

白紙

日本國中平餘矣小之神祇別而伊豆箱

根西所之權現三鴻大明神殊氏神可蒙御

罰者也仍起請文如件

名字官

年号月日

名字官殿

貞元
道

右之通之形事三々際自以之而去之矣と事のまじりて一々
の始の起法又ハ記法又前事と事とを記す也其記法ハ白紙
何故と云事記す也其記法ハ白紙と事とを記す也其記法ハ白紙
裏面との面記す也其記法ハ白紙と事とを記す也其記法ハ白紙
右之通の形事三々際自以之而去之矣と事のまじりて一々

おしく目せ元必二千高津とす入屋一り一書

年号書指の文

三條二西年二月十日

皇女の時書下り一書とくお

天正八打

六月十日 お母の御いめけけお号の御時年号お

從御書指とて文云ふ一書下り年号御用又書

号の時年号おと又書下り一書とす人一り

若も人おりの御別おり一書お母御書指書

文一書御書指一書一書御書指書一書

お母御書指一書一書御書指書一書

